

ゲノム編集技術応用食品に対する方針

パルシステム 2030 ビジョンの「たべる」＜食＞には、『一人ひとりの生涯を通じた食と健康なくらしによりそえる、安全で安心な商品を開発し、その情報を適切に伝えることで、くらしが求める多様なニーズに応えます。』を掲げています。

パルシステムは、ゲノム編集技術応用食品（以下、ゲノム編集食品）に対して、消費者の知る権利や選ぶ権利を守るために、環境影響評価及び食品安全性審査並びに表示の義務付けを求める立場です。

ゲノム編集食品が表示されないまま流通すると組合員は選択することができません。パルシステムは、ゲノム編集食品に反対の姿勢を示し、不使用を追求します。

1. 基本姿勢

ゲノム編集食品に反対の姿勢を示します。

2. 基本方針

- (1) ゲノム編集食品の不使用を追求します。
- (2) ゲノム編集食品の表示や届出の義務化、食品安全性審査及び情報の公開などを求める運動に取り組みます。

3. 事業での取り組み

- (1) 産地や取引先に対してパルシステムの基本姿勢や基本方針への協力を要請し、ゲノム編集食品の不使用を追求します。
- (2) ゲノム編集食品として確認できる原材料は、取引先と協働してパルシステムで取り扱う商品から排除します。
- (3) パルシステムの産直産地と協働の力で、農産・畜産・水産の産直原料ではゲノム編集食品を取り扱いません。
- (4) ゲノム編集食品が表示されないまま流通する可能性があることで原材料の確認が難しくなる課題や、パルシステムの取り組み状況について、組合員にわかりやすくお知らせしていきます。

4. 運動(組合員、会員生協、他団体と連携)での取り組み

- (1) 消費者の知る権利・選ぶ権利が守られるようゲノム編集食品の表示や届出の義務化、情報開示を日本政府や行政に求めています。
- (2) ゲノム編集食品を食品安全性審査や環境影響評価の対象とするよう、日本政府や行政に求めています。
- (3) 有機 JAS にゲノム編集食品作物の扱いを認めないよう農林水産省に求めています。
- (4) 「みどりの食料システム戦略」における新しい品種の開発やゲノム編集技術・ゲノム編集作物の開発に関し、生産者や消費者の懸念を農林水産省へ積極的に伝えていくとともに、今後の動向を注視していきます。
- (5) ゲノム編集食品に関して、組合員に積極的な情報提供と学習の機会をつくっていきます。

パルシステム生活協同組合連合会